

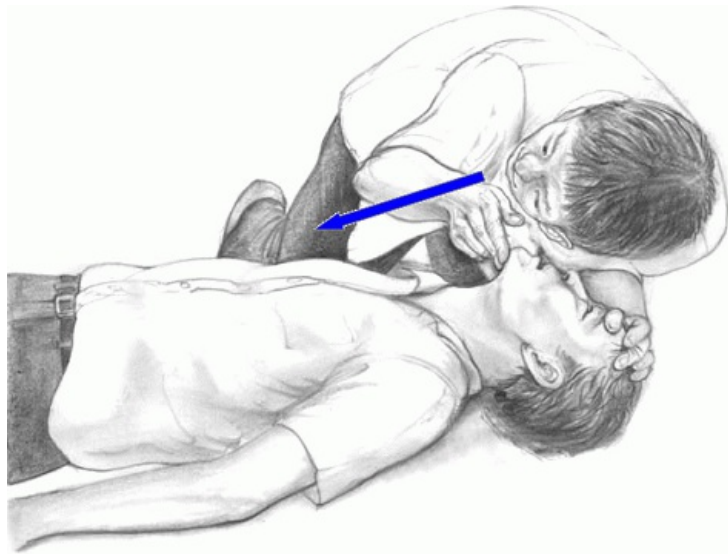
心肺蘇生法の手順

5. 呼吸を確認する

傷病者の気道を確認したら、その姿勢を維持したまま、傷病者の胸の動き(息をするたびに上がったり下がったり)を見ます。このさい、あなたは姿勢を低くして、顔を傷病者の口元に近づけると胸の動きも見やすくなりますし、頬で息を感じ、耳で息の音を聴くこともできます。こうして、普段どおりの息(正常な呼吸)があるかどうかを、「見て、聴いて、感じて」調べます(図a)。5~10秒間観察してみても、傷病者の胸の動きが見られず、息を聴くことも感じることもできなければ、傷病者は呼吸をしていません(「普段どおりの息(正常な呼吸)」はありません)。約10秒間観察しても、呼吸の状態がよくわからない場合は、正常な呼吸はないものと判断します。

心停止が起こった直後には「死戦期呼吸」と呼ばれる呼吸が見られる場合もありますが、これも「普段どおりの息(正常な呼吸)」ではありません。死戦期呼吸とは、しゃくりあげるような呼吸が途切れ途切れに起こる呼吸のことです。呼吸をしていない、あるいは、死戦期呼吸があるなど「普段どおりの息がない」場合には、「心肺停止」と判断し、次のステップに沿って胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ(心肺蘇生)を開始します。

反応はないが普段どおりの息がある場合には、傷病者を注意深く観察しながら、救急隊の到着を待ちます。必要なら傷病者を横向きに寝かせるとよいでしょう(この姿勢を「回復体位(図b)」と呼びます。「応急手当」の項を参照してください)。



図a 普段どおりの息(正常な呼吸)があるかないかを「見て、聴いて、感じる」



図b 回復体位